

## 人文学部教員研究業績一覧（2019.1.1-12.31）

### Academic Achievements in 2019: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆

⑥学会・研究会等での報告

⑦上記以外の業績

金井 直

- ①『城下町のまちづくり講座』（「城下町からの感性論」 pp.148-154を分担執筆）信濃毎日新聞社 [共著]
- ③『ART SINCE 1900 図鑑 1900年以後の芸術』（pp.24-33, 102-109, 585-590を分担翻訳）東京書籍 [共訳]
- ⑤「村上早の版画、あるいはふたつの接触について」（『gone girl 村上早作品集』 My Book Service, pp.66-70） [単著]
- ⑦ 1）対談掲載「絵画のための見晴らし小屋・風景・絵画」（母袋俊也『絵画へ 1990-2018 美術論集』論創社, pp.201-238） [共著] 2）オープニングトーク「旅する作品言葉と国を越えて」千田泰広との対談（豊科近代美術館, 4月30日） [共同] 3）シンポジウム「タイムライン展—制作・展示・作家からの声を中心に」（京都大学総合博物館, 5月12日）関連トーク [単独] 4）講演「ピエロ・マンゾーニ 無・痕跡・過剰」（イタリア文化会館, 10月15日） [単独] 5）講演「絵画へ 1990-2018 美術史研究との境域」（東京造形大学, 11月30日） [単独]

北村明子

- ④ 1）暁～AKATZKI～ 作戦行動〇〇伍『ラストワルツ』、出演、2月8-9日、ロックスター有限会社主催、シアタートラム 2）“Cross Transit”、振付・演出・出演、3月15日、Stephens Hall Towson University、3月19日、John F Kennedy Center、Washington DC、3月22-23日、Japan Society NY. 3）“Blind Trip” Skin Project Artist in Residence Creation、振付・演出、10月4日、Partick Studio DanceExchange、Birmingham、11月12日、The Place、London、11月21日、Arena Theatre、Wolverhampton、“Blind Trip” Skin Project、Ace dance& music 主催 4）Cross Transit project 『梁塵の歌』、振付・演出・出演、10月25-27日、シアタートラム、公益財団法人せたがや文化財団・世田谷パブリックシアター提携、世田谷区後援、国際交流基金アジアセンター アジア・文化創造協働助成、

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団助成

- ⑤ <インタビュー> 1) ルーツとの対話（トーク）、身体から問う（対談、ケイン樹里安）、Hafu Talk、9月8日 2) 「Story of Gratitude 私の大切な「ありがとう」の話。」、『&Premium（アンドプレミアム）』2020年1月号、11月20日、pp42-43 3) 「未来のアジア ダンスで表現」、毎日新聞、10月24日
- ⑥ 「未知の身体力～ダンスとの出会い」、南山大学D棟DB1教室、2月23日、名古屋哲学学会講演会・中部哲学学会共催公開シンポジウム
- ⑦ <レクチャー・ワークショップ> 1) 中学生を対象とするダンスワークショップ：「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」[単独]、2月22-23日（2日）、さいたま市立大谷口中学校、彩の国埼玉芸術劇場共催 2) 世田谷パブリックシアター ダンス食堂 メニュー18 北村明子、[単独] 9月26日、世田谷文化生活情報センターワークショップルーム（キャロットタワー4階）、公益財団法人せたがや文化財団主催、世田谷パブリックシアター企画・制作、東レ株式会社協賛、世田谷区後援 3) 「振付家庭教育成講座【Terra Co.】特別講座」[単独]、2019年11月24日、市ヶ谷 Organ Works 事務所、Organ Works 主催

篠原成彦

- ② 「科学的思考と心，自由，そして罪—2018年度「科学論」講義より—」、『信州大学人文科学論集』第6号，1-18，[単著]

濱崎友絵

- ① 「感性を『統合』する——国民音楽からトルコ民俗音楽へ」（小笠原弘幸編『トルコ共和国 国民の創成とその変容 アタテュルクとエルドアンのはざままで』九州大学出版会、pp.73-96）[共著]
- ② 「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽伝承にかかわる調査報告：ドルトムントとベルリンを例に」（『信州大学人文科学論集』第6号、pp.33-48）[単著]
- ⑦ 1) 科学研究費基盤研究(C)「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽伝承メカニズム」（課題番号：19K00130）研究代表者 2) 早稲田大学非常勤講師（2019年9月～11月） 3) セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員 4) 一般財団法人松本市芸術文化振興財団 評議委員 5) 『音楽大事典』（平凡社）改訂版編集委員（継続）

早坂俊廣

- ② 「論劉宗周思想的意与知——従与史孝復の争論來看」（申緒路訳、『浙江社会科学』2019年08期、pp.113-120）[単著]
- ③ 「鄒守益「会語」資料（龍華會語・惜陰申約・惜陰説）訳注—陽明門下の会語記録を読む 其の三一」（『白山中国学』通巻25号、pp. 1-22）[共著]
- ⑥ 「関于荒木見悟“南宋功利学”研究」（何珊珊訳、「中国哲学的豊富性再現——荒木見悟と中日儒学国際研究会」、9月14日、復旦大学哲学学院）[単独]

## 三谷尚澄

① Jay Garfield (ed.), *Wilfrid Sellars and Buddhist Philosophy: Freedom from Foundations*, (Author of chap. 1, 'The World in Which Everything is the Self: The Philosophy of the Original Image and Pan-Self-Isms', pp. 3-31), Routledge. [共著]

⑦ 長野県看護協会看護学生等実習指導者養成講習会講師 (9月～10月)

## 護山真也

② 1) 「有時管見——道元の時間論とB系列の時間論——」『信州大学人文科学論集』第6号, pp.19-31. [単著] 2) 「ヨーガ行者の直観と全知をめぐるプラジュニャーカラグプタの議論——*Pramāṇavārttika* III 286の解釈をめぐる——」『印度哲学仏教学研究』第67巻第2号, pp.150-157. [単著] 3) “On *dharmisvarūpaviparītasādhana*,” *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens*, Bd. LVI-LVII/2015-2018 (2019), pp.37-49. [単著] 4) “Dharmapāla,” *Brill's Encyclopedia of Buddhism. Volume II: Lives*. Edited by Jonathan A. Silk et al. Leiden-Boston: Brill, pp.168-172. [単著] 5) “Buddhist Philosophy in Two Japanese Cross-Philosophical Approaches,” *Newsletter of the American Philosophical Association (APA)*. Spring 2019, Volume 18, Number 2, pp.24-27. [単著] 6) 「作有縁性 (*satpratrayakartṛtva*) について」『印度学仏教学研究』第68巻第1号, pp.174-181 [単著]

⑥ 1) “Yamāri on Two Levels of *Pramāṇa*: The Omniscient Buddha and the Ordinary Means of Valid Cognition.” (International Workshop: *Prajñākaragupta* and Yamāri. University of Leipzig. 6月30日) [単独] 2) 「作有縁性 (*satpratrayakartṛtva*) について」(日本印度学仏教学会第70回学術大会, 仏教大学, 9月7日) [単独] 3) “On *satpratrayakartṛtva*” (招待講義, 復旦大学, 9月14日) [単独] 4) “*Prajñākaragupta* and *Jñānaśrimitra* on the reliability of yogic perception” (招待講義, Jagiellonian University [Poland], 11月15日) [単独] 5) “*Prajñākaragupta* and *Jñānaśrimitra* on the reliability of yogic perception” (日填学術交流60周年記念シンポジウム “Philology, Philosophy and the History of Buddhism,” University of Vienna, 11月19日) [単独]

## 菊池 聡

⑥ 1) 「おたくの系譜学 社会的相互作用としてのおたく」キャリアデザイン学会キャリアデザインライブ, 日本大学, 4月19日 [単独] 2) “Lexical Analysis of Online Discussion in a Blended Learning Course” Minoru Nakayama, Satoru Kikuchi, Hiroh Yamamoto. ECSM2019, Proc. of 6th European Conference on Social Media, University of Brighton, U.K. pp.223-230, 13, Jun. 2019. [共同] 3) 「疑似科学的言説に対する科学リテラシー向上を目的としたオンラインプラットフォームの開発」山本輝太郎・佐藤広英・菊池聡. 日本科学教育学会第43回年会, 宇都宮大学, 8月25日 [共同] 4) 「おたくにとってのコミュニケーションの意味を問う サブカルチャーの心理学(2)」日本心理学会第83回大会, 立命館大学, 9月12日 [単独] 5) 「疑似科学信奉の多面性と批判的思考の関連性」日本心理学会第83回大会, 立命館大学, 9月13日 [単独] 6) 「Twitter 利用と疑似科学信奉との関連(1)——利用頻度、利用動機の観点から——」佐藤広英・菊池聡. 日本教育心理学会第61回総会, 日本

大学文理学部，9月14日〔共同〕 7)「Twitter 利用と疑似科学信奉との関連(2)——接触する情報の観点から——」菊池聡・佐藤広英，日本教育心理学会第61回総会，日本大学文理学部，9月14日〔共同〕 8)「疑似科学を信じる心理 クリティカルシンキングを育てるために」理数系学会教育問題連絡会シンポジウム，東京大学本郷キャンパス，12月8日〔単独〕

⑦ 1)「防災減災のための心の科学」(信州大学出前講座：諏訪市民生児童委員会研修会，諏訪ベルファイン，1月30日)〔単独〕 2)「人はなぜ騙されるのか～心理学でストップ消費者被害～」(横浜市南区社会福祉協議会職員研修，横浜市南区役所，2月14日)〔単独〕 3)「明日のあなたを守るために 信州の気象災害と日々の健康」(信州大学地域防災減災センター・茅野市共催 信州大学創立70周年旧制松本高等学校100周年記念事業，パネルディスカッション，茅野市民活動センター，2月19日) 4)「医療・日常生活でのクリティカルシンキング入門 「思い込み」の認知心理学」(横須賀三浦鍼灸マッサージ師会平成31年度第2回学術講習会，神奈川衛生学園専門学校，3月23日)〔単独〕 5)「なぜ疑似科学を信じるのか」(飯山高等学校 SSH 講演会，5月9日)〔単独〕 6)「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座：立科公民館2019年度第1回立科すずらん学級，立科中央公民館，5月23日)〔単独〕 7)「建築現場でのゼロ災害のための心の科学 ～「人のくせ」を理解してヒューマンエラーを未然に防ぐ～」(ライオンエンジニアリング西地区安全大会，大阪府堺市，6月21日)〔単独〕 8)「だまされるこころの心理学」(信州大学出前講座：依田窪防犯協会連合会，上田サントミューゼ，7月3日)〔単独〕 9)「防災減災のための心理学」(信州大学出前講座：長野県消防防災航空センター安全運航会議，まつもと空港，7月5日)〔単独〕 10)「防災減災のための心の科学 ～リスク社会をいかに生きるか」(コープながの防災減災学習会，松本市，7月11日)〔単独〕 11)「建築現場でのゼロ災害のための心の科学 ～「人のくせ」を理解してヒューマンエラーを未然に防ぐ～」(ライオンエンジニアリング東地区安全大会，東京都両国，7月12日)〔単独〕 12)「防災減災のための心理学 リスク社会をいかに生きるか」(AREC (浅間リサーチエクステンションセンター)第214回リレー講演会 信州大学繊維学部，7月19日)〔単独〕 13)「だまされる心の心理学 ～物事を批判的に考えるために～」(松本市 NPO 法人ライフデザインセンター，7月26日)〔単独〕 14)「やる気を引き出す ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座：長野西高等学校梶の葉大学，7月30日)〔単独〕 15)「多文化共生時代の防災減災とコミュニケーション」(信州大学地域防災減災センター第8回市民防災シンポジウムパネルディスカッション，松本市中央公民館Mウイング，8月5日) 16)「心理学からのクリティカルシンキング入門」(令和元年度・教員免許状更新講習，信州大学，8月3日)〔単独〕 17)「特殊詐欺にだまされる心理と私たちの人権」(松本市和田公民館人権啓発講演会，9月25日)〔単独〕 18)「あなたもきっと騙される！～思い込みを科学しよう～」(信州大学同窓会東京支部総会講演会，東京新橋，9月28日)〔単独〕 19)「心理学で体験しよう ポジティブに生きるための考え方」(信州大学出前講座：丸ノ内中学校保健委員会講演会，10月14日)〔単独〕 20)「災害ボランティア養成講座 災害現場でおぼえておきたいこと」(信州大学出前講座：朝日村社会福祉協議会，11月21日)〔単独〕 21)「ポジティブに生きるための心理学 落ち込みを防ぐための「考え方」を身につけよう」(信州大学出前講座：大町岳陽高等学校1年生保健講話，11月29日)〔単独〕 22)「防災・減災のための心理学 リスク

社会に備えるために何ができるか」(令和元年度上伊那地域栄養士研修会, 伊那合同庁舎, 12月3日) [単独] 23) 「次の災害に備えるために 鳥立大庭に想定される災害と、具体的な対策」(鳥立大庭公民館防災減災学習会, 12月14日) [単独] 24) 「防災・減災のための心理学 リスク社会に備えるために何ができるか」(令和元年度飯田下伊那地域栄養士研修会, 飯田合同庁舎, 12月16日) [単独] 25) 「ポジティブに生きるための心理学」(令和元年度松本市小中学校事務研究会冬期研修会, 梓川公民館, 12月16日) [単独] 26) 「防災減災のための心の科学 ～リスク社会をいかに生きるか」(コープながの防災減災学習会, 長野市, 12月23日) [単独]

佐藤広英

② 1) 「儲かるとうたう情報商材にだまされる心理」(ウェブ版国民生活, 78, 4-6) [単著] 2) 「対人コミュニケーションにおける自動的な印象操作が精神的健康に及ぼす効果」(信州大学人文科学論集, 6, 49-58) [単著] 3) 「Twitter 上での他者情報公開を規定する心理的要因: 友人, 知人に関する情報公開に着目して」(パーソナリティ研究, 27(3), 235-245) [共著] 4) 「個人に関する情報に対する大学生のプライバシー判断」(愛知学院大学総合政策研究, 21(2), 17-24) [共著] 5) 「青年期における SNS 利用時の対人ストレス過程に関する研究: 精神的健康との関連」(公益財団法人電気通信普及財団研究調査助成報告書34号) [単著]

⑥ 1) 「GDPR 対応したプライバシーポリシーに関するユーザ評価」(暗号とセキュリティシンポジウム2019 (SCIS2019), びわ湖大津プリンスホテル, 1月24日) [共同] 2) 「疑似科学的言説に対する科学リテラシー向上を目的としたオンラインプラットフォームの開発」(日本科学教育学会第43回年会, 宇都宮大学, 8月24日) [共同] 3) 「大学生と高齢者のプライバシー意識の比較」(日本パーソナリティ心理学会第28回大会, 武蔵野美術大学, 8月28日) [共同] 4) 「SNS 利用時のストレス経験の測定: 閲覧状況, 相互作用状況ごとの検討」(日本パーソナリティ心理学会第28回大会, 武蔵野美術大学, 8月28日) [単独] 5) 「SNS 利用時のストレス経験と精神的健康の関連」(日本心理学会第83回大会, 立命館大学, 9月11日) [単独] 6) 「Twitter 利用と疑似科学信奉との関連(1): 利用頻度, 利用動機の観点から」(日本教育心理学会第61回総会, 日本大学, 9月14日) [共同] 7) 「Twitter 利用と疑似科学信奉との関連(2): 接触する情報の観点から」(日本教育心理学会第61回総会, 日本大学, 9月14日) [共同] 8) 「プライバシーポリシーのユーザ理解支援ツール構築のための Web アンケート調査国別比較」(コンピュータセキュリティシンポジウム2019 (CSS2019), 長崎ハウステンボス, 10月21日) [共同]

⑦ 1) 国立研究開発法人情報通信研究機構ネットワークセキュリティ研究所セキュリティ基盤研究室・招へい専門員 (2019年4月～現在) 2) 日本パーソナリティ心理学会・学会誌編集委員会常任委員 (2018年9月～現在) 3) WebLab 研究会・メディア・情報・コミュニケーション研究編集委員 (2016年4月～現在) 4) 「スマートフォンで潜在的なメンタルヘルスを評価するアプリケーションの開発」(科学研究費補助金基盤研究(C) 研究代表者, ~2021年3月) 5) 「青年期における SNS 利用時の対人ストレス過程に関する研究: 精神的健康・学校適応との関連」(財団法人電気通信普及財団平成28年度研究調査助成 研究代

表者、～2019年6月） 6）「情報メディアの心理学」（令和元年度教員免許状更新講習，信州大学，7月27日） 7）「長野県をフィールドとした観光PR動画の作成と情報発信」（2019年度JAF長野支部会員優待施設連絡会での講演，ホテルアンビエント安曇野，10月30日） 8）「信州まつもとと空港オフシーズンの活性化について」（長野県松本地域振興局令和元年度政策研究に関する意見交換，信州大学，11月28日）

#### 茅野恒秀

② 1）「国有林における「資源化のダイナミズム」の喪失と再生：赤谷プロジェクトの展開を通じて」（『国立歴史民俗博物館研究報告』215：171-197）[単著] 2）「遠隔地域間連携によるウッドスタートの創発的効果：サステナビリティと地域再生をめぐるネオ内発的視座」（『サステナビリティ研究』9：65-79）[単著]

⑥ 1）「社会制御システム論と環境社会学の研究戦略」（6月9日、第59回環境社会学会大会、明治学院大学）[単独] 2）「除染土・除染廃棄物問題の論点」（6月21日、日本環境会議セミナー、東洋大学）[単独] 3）「大船渡市における地区ごとの復興プロセスと住民意識の関係：「復興に関する大船渡市民の意識調査」の分析③」（10月5日、第92回日本社会学会大会、東京女子大学）[単独]

⑦ 1）講演「地域はメガソーラー開発にどう向き合うべきか」（1月14日、相馬市民会館）[単独] 2）講演「エネルギー転換の現状と課題：長野県内の動向から」（1月24日、豊かな環境づくり佐久地域会議）[単独] 3）コーディネーター「持続可能な地球の未来を担うSDGs：高校生が木育の視点から向き合う」（2月16日、木育サミット in 徳島）[単独] 4）コーディネーター「さとぷろ。フォーラム」（3月9日、安曇野市役所）[単独] 5）講演「原発ゼロ社会への道」（3月23日、原発ゼロ学習交流集会）[単独] 6）NHK ETV特集「彼らは再び村を追われた：知られざる満蒙開拓団の戦後史」取材協力・出演（3月23日）[単独] 7）講演「津波被災地の経験にみるコミュニケーションの課題」（8月5日、第8回市民防災シンポジウム「多文化共生社会の防災減災とコミュニケーション」、松本市）[単独] 8）講演「地域を豊かにする脱炭素社会づくり」（8月6日、千曲市地球温暖化対策協議会）[単独] 9）講演「調停とは何か？ どう向きあうべきか？」（8月7日、宮田の環境を守る会学習会）[単独] 10）コーディネーター「薪を活かす、薪で生きる：“MAKIKORI”に学ぶ」（11月9日、松本市四賀支所）[単独] 11）トークセッション「森とつながるエネルギー 薪ストーブ&ペレットストーブ 大集合！」（11月17日、長野市南千歳公園）[共同] 12）ファシリテーター「地域にあるものを活かす“くらし”」（11月30日、駅前交流テラスすわっチャオ）[単独]

#### 水原俊博

② 1）「消費主義は主観的幸福感を高めるか——2016年東京圏調査のデータ分析」, 間々田孝夫編『社会的消費・質的高度化・消費主義の視点から見る21世紀消費社会の調査研究』2016-2018年度科学研究費補助金研究成果報告書, 立教大学, pp.113-126 [単著]. 2）「中国大都市における消費文化と主観的幸福感——2017年上海・北京調査のデータ分析」, 廣瀬毅士編『「第三の消費文化」パラダイムに基づいた中国消費社会の実証研究』2016-2018年

度科学研究費補助金研究成果報告書, 東京通信大学, pp.43-58 [単著] 3) 寺島拓幸・水原俊博・野尻洋平, 2019, 「持続可能な消費都市ポルトランドの現状と課題」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』56(1): 17-34 [共著]

⑥【学会】「文化的消費と経済社会システム」, ラウンドテーブル, 消費市民社会論の新たな動向, 経済社会学会第55回全国大会, 2019.9.8, 於: 熊本大学 [単独]

⑦【共同研究】松本市多文化共生実態調査, 松本市 [共同] 【学会運営】 1) 経済社会学会常務理事 2) 経済社会学会第56回全国大会プログラム委員 3) 経済社会学会年報編集委員長 (~2019.9) 4) 経済社会学会高田保馬賞選考委員 (~2019.9) 【その他】 1) 信濃美術館地域連携専門委員 2) 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員 3) 公益財団法人八十二文化財団理事

今井 章

② 1) 「ディスクの回転による触覚の錯覚現象について(3)一回転手と支持手の効果の分離」信州大学人文科学論集, 6 (53), 59-69. <http://hdl.handle.net/10091/00021378> [共著]

2) Revoll, P., Collette, S., Boulot, Z., Foncelle, A., Niki, C., Thura, D., Imai, A., Jacquin-Courtois, S., Cabanac, M., Osiurak, F., and Rossetti, Y. (2019). Thirst for intention? Grasping a glass is a thirst-controlled action. *Frontiers in Psychology*, <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2019.01248> [共著]

⑥ 1) 「隠蔽期間の長さが虚偽検出時の P300 に及ぼす影響について」日本生理心理学会第 37 回大会 (2019.5.25, 文教大学) [共同] 2) “A magnetoencephalographic study of apparent motion illusion in relation to the two-dimensional and three-dimensional stimulations” The 42nd European Conference on Visual Perception (ECPV2019) (2019. 8. 29, Leuven) [doi/pdf/10.1177/0301006619863862](https://doi.org/10.1177/0301006619863862) [共同] 3) 「定位反応の指標としての精神性発汗—換気カプセル式デジタル発汗計を用いた検討—」日本心理学会第 83 回大会 (2019.9.13, 立命館大学) <https://www.micenavi.jp/jpa2019/img/figure/10778.pdf> [共同]

⑦ 1) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成 30 年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」(2019 年 2 月 7 日, 長野県松本市キッセイ文化ホール) [単独] 2) 2019 年度放送大学教養学部第 1 学期面接授業講師「心理学実験 1」(2019 年 6 月 8 - 9 日, 長野県諏訪市文化センター) [単独] 3) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部令和元年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」(2019 年 6 月 27 日, 長野県松本市キッセイ文化ホール) [単独] 4) 令和元年度愛知淑徳大学非常勤講師「視覚生理学演習」(8 月 19 - 22 日, 愛知淑徳大学長久手キャンパス) [単独] 5) 2019 年度放送大学教養学部第 2 学期面接授業講師「心理学実験 3」(2019 年 11 月 9 - 10 日, 長野県諏訪市文化センター) [単独]

岡本卓也

① 1) 「子どもの安全をどう守るか」(『ワードマップ コミュニティ心理学: 実践研究のための方法論』新曜社 pp.163-172) 2) 「論文・報告書をまとめる」(『ワードマップ コ

コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』新曜社 pp.326-338)

② 「「道」と「歩くこと」の社会心理学(1)：国内のロングトレイル、フットパス、オルレの現状と可能性」(信州大学人文科学論集, (6), 95-121) [単独]

⑥ 1) 「コミュニティと「道」」(日本コミュニティ心理学会第22回大会 大会企画シンポジウム「地方と都市のコミュニティを考える」追手門学院大学, 2019年6月 話題提供) [単独] 2) 「地域効力感が居住地域への評価に与える影響」(日本コミュニティ心理学会第22回大会, 追手門学院大学, 2019年6月) [共同] 3) “The most memorable travel experiences from the point of view of travel career.” (XVI European Congress of Psychology, Lomonosov Moscow State University, 2019年6月) [国際・共同] 4) 「旅行キャリアの発達過程(3)－年代別でみた興味深い旅の経験と同行者」(日本心理学会第83回大会, 立命館大学, 2019年9月) [共同]

⑦ 【外部資金の獲得】 1) 「観光行動における歩くことの心理過程と自己過程に関する研究」(科学研究費補助金(挑戦的研究(萌芽))：研究代表者) 2) 「旅行キャリア発達のための熟達化過程の解明とキャリア対応型観光支援システムの開発」(科学研究費補助金(基盤研究(B))：分担研究者) 3) 「先端生命科学を促進する先駆的 ELSI アプローチ」(平成28年度 社会技術研究開発センター (RISTEX) 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」：分担研究者) 4) 「コミュニティ健康文化研究プロジェクト」(チームグル合同会社) 【学会活動】 1) 日本コミュニティ心理学会理事 2) 日本コミュニティ心理学会編集委員会委員 3) 日本コミュニティ心理学会第22回大会実行委員会委員 【社会貢献】 松本市市民活動推進委員会委員長

高瀬弘樹

⑥ “A magnetoencephalographic study of apparent motion illusion in relation to the two-dimensional and three-dimensional stimulations.” (The 42nd European Conference on Visual Perception (ECVP2019), Aug. 29, Belgium) [共同]

⑦ 公益社団法人才能教育研究会との共同研究「プロのヴァイオリニストの演奏は、アマチュアと何が違うのか？—プレリミナリー・スタディー—」(2018年9月1日～2020年8月31日)

松本 昇

① 『テロリズムの心理学』(越智啓太編著, 誠信書房, pp.185-206 「テロリズムの PTSD」) [共著]

② 1) Matsumoto, N., & Mochizuki, S. (2019). Reciprocal relationship between reduced autobiographical memory specificity and depressive symptoms in nonclinical populations. *International Journal of Cognitive Therapy*, 12(2), 73-86. doi:10.1007/s41811-019-00042-w [共著] 2) Matsumoto, N., & Mochizuki, S. (2019). Retrieval process of overgeneral memory and the capture and executive control hypothesis: Using Autobiographical Memory Test with thought sampling. *Memory*, 27(5), 673-685. doi:10.1080/09658211.2018.1552708 [共著]

⑥ 1) Matsumoto, N., Takahashi, Y., & Kawaguchi, J. (2019). Dysfunctional Schema and overgeneral categoric memory: A revisit. Special Interest Meeting in Autobiographical



Memory and Psychopathology 2019, Cambridge (UK) [共同] 2) Nishimura, H., Hasegawa, A., Nishiguchi, Y., Tabuchi, R., Matsumoto, N., Masuyama, A., & Mochizuki, S. (2019). Differential effects of working memory updating and attentional control on rumination. 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (WCBCT2019), Berlin (Germany) [共同] 3) Matsumoto, N., Takahashi, Y., & Kawaguchi, J. (2019). Increasing the direct retrieval of overgeneral categoric memory in depression. 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (WCBCT2019), Berlin (Germany) [共同] 4) テロリズムの PTSD “テロリズムに対して心理学は何かができるのか(4)” (話題提供者), 日本心理学会第83回大会 (立命館大学) [単独] 5) 小講演「抑うつ者における自伝的記憶の概括化」, 日本心理学会第83回大会 (立命館大学) [単独] 6) 記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション(9)メタ記憶および再固定化 (企画代表者・司会者), 日本心理学会第83回大会 (立命館大学) [単独] 7) 双極性障害の認知臨床心理学: 過去から未来へ “双極性障害の認知・行動病理のメカニズムとその治療 3—ポジティブ感情の調整過程に焦点を当てて—” (話題提供者), 日本認知・行動療法学会第45回大会 (中京大学) [単独] 8) 感情の功罪を考える—臨床から— “感情の功罪を考える—基礎・社会・臨床から—” (話題提供者), 第27回日本感情心理学会大会企画シンポジウム (東海学園大学) [単独]

#### 大串潤児

- ① 『4つの時代をタイムトラベル』全4巻 (「明治の図鑑」[35頁]「大正の図鑑」[35頁]「昭和の図鑑」[39頁]「平成の図鑑」[35頁])、廣済堂あかつき、2019年3月 [単独・監修]
- ② 1) 「1960年代のサークル「山脈の会」—発想とテーマについてのノート」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第216集、2019年3月、243~259頁) [単著] 2) 「姫路—高松—徳島紙芝居調査報告」(神奈川大学非文字資料研究センター『News-Letter』No.42、2019年9月、20~24頁) [共著 22~24頁を分担執筆]
- ⑤ 1) 「「おんな・部落・沖縄」の問題提起 女性史・ジェンダー史研究の入り口」[インタビュー記事] (『信濃毎日新聞』2019年8月11日) [単独] 2) 「若者の動向に注目すべき今後の日韓関係」[インタビュー記事] (『長野県革新懇ニュース』No.245、2019年10月10日 1~2頁) [単独]
- ⑥ 1) 「国策紙芝居とは何だろうか?」[単独] 日本現代史研究会、2019年1月26日、於・早稲田大学 [単独] 2) 「北海道における紙芝居研究の成果と課題—問題提起として」[単独] 神奈川大学非文字資料研究センター共同・北海道研究会、2019年8月3日、於・北海道立文学館 [単独] 3) 「戦争と文化を考える?—子どもたちは「戦争」に熱狂したか?」[単独] 神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会日本史研究推進委員会「日本史サマーセミナー2019」、2019年8月19日、於・横浜翠嵐高等学校 (横浜市) [単独] 4) 「第二次世界大戦の構造と認識—あらためて日本の第二次世界大戦をふりかえる」12.8永久に不戦を誓う集い、2019年12月11日、於・松本市勤労者福祉センター [単独]
- ⑦ [非常勤] 長野県立大学非常勤講師 [社会貢献] 国立歴史民俗博物館展示リニューアル委員会/飯田市歴史研究所顧問研究員/神奈川大学非文字資料研究センター客員研究員

## 豊岡康史

- ①『銀の流通と中国・東南アジア』（山川出版社、2019年、253頁）[共編著]  
 ②1）「嘉慶四（1799）年三月上諭訳注：清朝嘉慶維新研究序説」（『信州大学人文科学論集』6、183-204）[共著] 2）「嘉慶四（1799）年七月上諭の訳注および考察(1)：清朝嘉慶維新研究序説」（『地域学論集：鳥取大学地域学部紀要』16（1）、109-117）[共著]  
 ⑥「「嘉慶海賊」の中のジェンダー」（明清史夏合宿2019 シンポジウム：明清史をジェンダー主流化する／アジア史における血縁構造とジェンダーの比較検討、8月28日、マホロバマインズ三浦）[単独]  
 ⑦1）科学研究費補助金「清朝中期漢地政策の変容とその社会経済的背景の再検討（1736-1854）」（若手研究、18K12522、2018-2021年）を研究代表者として実施。 2）2018年度JFE21世紀財団アジア歴史研究助成「清朝中期の構造変動と「嘉慶維新」（1796-1820）」を研究代表者として実施。

## 山本英二

- ②「幕末期尾張藩の年中行事と忌日」（徳川林政史研究所『研究紀要』第53号、pp.105-122、2019年3月）[単著]  
 ⑥「近世甲斐国の偽文書と贋作者たち—「誠忠旧家録」再考—」（近世の宗教と社会研究会・研究報告、於山梨県甲州市恵林寺、12月14日）[単独]  
 ⑦1）2018年度後期講座「古文書で学ぶ日本史」（名古屋市・栄中日文化センター、2月15日・3月15日）[単独] 2）2019年度前期講座「古文書で学ぶ日本史」（名古屋市・栄中日文化センター、4月19日・5月17日・6月21日・7月19日・9月20日）[単独] 3）2019年度後期講座「教科書で学ぶ日本史の謎と常識」（名古屋市・栄中日文化センター、10月18日・11月15日・12月20日）[単独] 4）愛知大学文学部春学期非常勤講師「日本史学講読」 5）徳川林政史研究所特任研究員 6）関東近世史研究会評議員 7）信州資料ネット代表

## 磯部美穂

- ②1）“Normalization of Multiple Efficiency Intervals by Interval Data Envelopment Analysis from Different Framework” (Seki H., Nguyen C., Huynh VN., Inuiguchi M. (eds) *Integrated Uncertainty in Knowledge Modelling and Decision Making*. IUKM 2019. Lecture Notes in Computer Science, vol 11471. Springer, Cham, 13-25) [共著] 2）「否定接頭辞 *un-* の造語意味 独和辞書の記述からみる反義と相補」（『信州大学人文科学論集』第7号（第1冊）、69-82）[単著]、  
 ⑥「否定接頭辞 *un-* の造語モデル再構築の試み」（京都ドイツ語学研究会、5月18日、於キャンパスプラザ京都6階 京都大学サテライト講習室）[単独]  
 ⑦1）講演「無用の学びについて—教養のためのドイツ語から実用のためのドイツ語へ—」（人文学部後援会総会、7月20日）[単独] 2）講演通訳「現代社会の諸問題への文学からのアプローチ」（立教大学文学部ドイツ文学専修主催公開講演会、10月4日、於立教大学池袋キャンパス）[単独] 3）科学研究費基盤研究(C)「外国語表現選択支援システムの構築」研究代表者。

伊藤加奈子

② 「“著名”の日中比較：高倉健は「有名」俳優なのか？」『信州大学人文科学論集』6（通巻53），pp.143-167 [単著]

氏岡真士

② 1) 「談上海圖書館所藏容與堂本《水滸》」（『文學研究』第4巻・2、84-96）[単著]

2) 「《後水滸傳》の構思」（『信州大学人文科学論集』第6号、131-141）[単著] 3) 「『俗語解』の論点」（『信州大学総合人間科学研究』第13号、162-170）[共著] 4) 「『俗語解』と『水滸伝』」（『汲古』第76号、25-30）[単著]

葛西敬之

① Zäsur-Welt/Literatur. Hrsg. von der Japanischen Gesellschaft für Germanistik. München（分担執筆：Märchenwelt in der Moderne. Probleme der Wirklichkeit und Fiktion in Robert Walsers frühen Dramoletten）[共著]

⑥ 「ローベルト・ヴァルザーの詩『ゲオルク・トラークルに寄す』再考」スイス文学会研究発表会，12月14日，於東洋大学 [国内・単独]

⑦ 1) 司会・通訳：2019年度第3回多文化交流サロン「ドイツ文学から見た世界—フィクションの中に組み込まれた現実社会—」10月7日，於信州大学 [単独] 2) 学会司会：日本独文学会2019年秋季研究発表会，10月20日，於成城大学 [単独]

鎌田隆行

② 1) « Le travail de la langue dans les avant-textes de Balzac : le cas de documents “intermédiaires” », in Éric Bordas (dir.), *Balzac et la langue*, Kimé, 2019, pp.47-64 [単著]

2) « Genèse de la langue des personnages issus de la classe populaire dans *Le Cousin Pons* de Balzac », 信州大学人文科学論集第7号（第1冊），2019, pp. 1-14 [単著] 3)

«La pensée du livre chez Balzac », in Francesco Spandri (dir.), *Balzac penseur*, Classiques Garnier, 2019, pp.225-242 [単著]

⑤ 書評：« Pierre Laforgue, *Balzac, fictions génétiques* », *Romantisme*, n° 184, 2019, pp.136-137.

⑦ 1) 講演会司会：高木信宏「スタンダール『赤と黒』における人物造型——レナール夫妻を中心に——」，11月1日，信州大学人文学部多文化交流サロン [単独] 2) 講演会通訳：

マルティヌ・リード「作家コレットになるということ」，11月25日，信州大学人文学部多文化交流サロン [単独] 3) 講演会ディスカッサント：クレール・バレル＝モワザン「バルザックと動物磁気」，12月21日，立教大学文学部 [単独] 4) 科学研究費補助金（基盤研究C）「バルザックにおける共作の生成論的研究」（研究課題番号18K00474）研究代表者

5) Groupe International de Recherches Balzaciennes（国際バルザック研究会）執行部メンバー（2008年3月～）6) パリ第8大学出版会叢書「Manuscrits modernes」アドヴァイザリーボード委員（2014年5月～）7) パリ・デイドロ大学ジャック・セバシエール研究センター客員研究員（2015年12月～）8) クラシック・ガルニエ社「Revue Balzac」編集

委員（2016年11月～） 9）シャンソン研究会参与（2011年4月～） 10）日本フランス語フランス文学会中部支部幹事（2017年4月～2019年3月）。

渋谷 豊

- ③ラディゲ『ドルジェル伯の舞踏会』光文社古典新訳文庫、全328頁 [単独]
- ⑤「[[追悼] フランソワ・ヴェイエルガンスー寄り道の達人]『ふらんす』七月号、65頁 [単著]
- ⑦「選評」『文藝譜（長野県文芸コンクール入賞作品集）』、20-22頁 [単著]

野津 寛

- ② 1) “Embedded Tales and the Story of Lucius: Psyche-Charite-Lucius and Other Parallel Narratives”, 『信州大学人文科学論集』第6号, p.123-130, 2019年3月 [単著]. 2) “Miyagi’s Antigones, Three Productions: Tokyo 2004, SPAC May 2017, and Avignon July 2017,” *Σ υ ν ν α γ ω ν ι ζ ε σ θ α ι*, *Studies in Honour of Guido Avezzi, Skenè Studies I-1* (ed. Silvia Bigliazzi etc.), p.881-922, 2019年4月 [Adele Scafuro 氏との共著]. 3) “Fixed Structures of Noh compared to Those of Greek Theatre”, 『東京大学草創期とその周辺：2014-2018年度多分野交流演習「東京大学草創期の授業再現」報告集』, p.158-163, 2019年3月, 東京大学人文社会科学研究所 [単著].
- ⑥ 1) “Fixed Structures of Ancient Greek Theatre, are They Comparable to Those of Japanese Lyric Drama Noh?”, Symposium: Comparative Studies on Greek, Roman and Japanese Theatre and Lyric Poetry, 2月15日, 東京大学 [単独]. 2) 「ヨーロッパを造った言語：ラテン語とギリシア語」, 7月25日, 長野 EU 協会総会記念講演会（犀北館ホテル） [単独]. 3) “Fixed Structures of Ancient Greek Theatre and Japanese Lyric Drama Nō”, Symposium : Comparative Studies of Drama and Lyric Poetry in Ancient Greece, Rome and Medieval and Modern Japan, 8月16日, Oxford Classics Centre [単独].
- ⑦学会開催 1) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催, 2019年3月9日, アテネフランセ 2) 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)「日本におけるギリシア演劇の受容と世界的発信に関する実証的総合研究」の研究代表者として, Symposium: Comparative Studies on Greek, Roman and Japanese Theatre and Lyric Poetry を共同開催, 2月15日, 東京大学西洋古典学研究室 3) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催, 2019年7月20日, アテネフランセ 4) 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)「日本におけるギリシア演劇の受容と世界的発信に関する実証的総合研究」の研究代表者として Symposium: Comparative Studies of Drama and Lyric Poetry in Ancient Greece, Rome and Medieval and Modern Japan を共同開催, 8月16日, Oxford Classics Centre

吉田正明

- ② 1) *De l'influence de la chanson populaire sur la poésie française au XIX<sup>e</sup> siècle*, 信州大学国際シンポジウム2018「19世紀における文学と民衆文化－フランスを中心として－」(2018

年12月2日、於信州大学人文学部) 報告集、人文学部 HP「人文学部からのお知らせ」、2019年3月、pdf (pp. 1-12) [単著] 2) 「19世紀フランス詩への民衆歌の影響」、信州大学『人文科学論集』第7号(第1冊)、2019年、pp.33-45 [単著]

⑦ 1) 第6回東京シャンソンコンクール審査員(5月5日、於杉並公会堂) 2) シャンソン研究会代表としてシャンソン研究会を主催 第33回シャンソン研究会(5月11日、於神戸大学国際文化学部); 第34回シャンソン研究会(11月30日、於信州大学人文学部) 3) 木曾町中学生海外研修(フランス・ブドゥース村へ派遣) 学習会講師(6月9日、6月30日、於木曾町文化交流センター) 4) リール大学との学術交流の一環として招待講演及び交換授業講師(招聘期間10月13日~10月21日、於リール大学); 10月15日に大学院日本語科の修士課程の授業2コマ、10月16日に仏文科の修士課程の授業1コマと講演1件実施 5) リール大学との学術交流の一環としてリール大学からマルチヌ・リード教授をお招きし、多文化交流サロン兼仏文交換授業「作家コレットになること」を実施(11月25日、於人文ホール) 6) 実用フランス語検定試験松本会場実施責任者(6月16日、11月17日) 7) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))(平成29年度~令和2年度)による研究「19世紀後半パリにおける出版物とシャンソンとの影響関係」(課題番号17K02589)を研究代表として実施

#### 飯岡詩朗

② 「消えたアメリカ黒人:『イングリシアス・バスターズ』と〈なりすまし〉のポリティクス」(『ユリイカ』51 (16)、109-119) [単独]  
⑥ 「「ニュー・メディア」を騙る TV ドラマ/映画——2つの『マーティ』(1953/1955)をめぐって」(日本映像学会第45回大会、6月2日、山形大学) [単独]

#### 伊藤 晝

⑤ (座談会記録) 桃井治郎、伊藤晝、太田淳「海賊が世界をめぐる」(【三人閑談】、『三田評論』2019年8・9月号、pp.80-91。 [共著]  
⑥ 1) (研究発表)「中の徒歩はニシエヒガシエ: *The Buried Giant* の方角と歴史感覚」日本英文学会第91回大会(安田女子大学) シンポジウム(第5部門)「Kazuo Ishiguro, *The Buried Giant* と中世ブリテンの記憶を語る: 中世英文学の系譜を21世紀に「受容する」とはどのようなことか?」司会・報告(5月25日) [単独] 2) (研究発表) 'An Onomastic Observation of the Names for Melkor', Omentielva Toltea: The Eighth International Conference on Tolkien's Invented Languages (University of Iceland, Reykjavik) Skype による研究発表(8月3日) [単独] 3) (研究発表) 'A Reception Study of an Interpretation of Scandinavian Slave-Issue in Post War Japan: From the Japanese Cartoon Version of *Vicke Viking* to *Vinland Saga*', 'Slaves, Serfs and Free Labor in Medieval Northern Europe: Interdisciplinary Conference (Universitätsclub Bonn, Universität Bonn) (10月26日) [単独]  
⑦ 1) (講演)「ABC 赤ちゃんからはじめる?」松本市梓川図書館(3月15日) [単独] 2) (対談) 大谷哲、幸村誠、小澤実、松本涼、伊藤晝、中丸禎子『「ヴィンランド・サガ」の世界を語る! 歴史とサガのエンターテイメント!』第66回せんだい歴史学カフェ(7月19

日) [共同] 3) (講演) 「JRR トールキンのファンタジー世界：『指輪物語』とエルフ語への招待」NHK 文化センター横浜ランドマーク教室 (2019年11月2日) [単独] 4) (講演) 「『ヴィンランド・サガ』に見る「北欧奴隷」表現の系譜」幸村誠、小澤実、松本涼、伊藤盡「トークセッション 『ヴィンランド・サガ』からみたアイスランド」(立教大学池袋キャンパス太刀川記念館3階カンファレンス・ルーム) (11月4日) [単独] 5) (講演) 'His-story Telling Narrative Tales : Fancy What Fancy Is'. 工学院大学附属中学校高等学校 (11月27日) [単独]

#### 杉野健太郎

- ① 杉野健太郎編『アメリカ文学と映画』、三修社、2019年10月30日。[単編著書／共著書]  
 ⑥ 学会シンポジウム「フィッツジェラルドと映画」、日本F. スコット・フィッツジェラルド協会2019年度全国大会、9月7日、早稲田大学。高野泰志、渡邊俊、和氣一成と共同。[共同]  
 ⑦ 1) 記録「大林宣彦 講演 未来のためにハッピーエンドをつむぐ映画」、日本映画学会第14回大会プロシーディングス、2019年3月26日、pp.41-52、記録：伊藤弘了／杉野健太郎。[共同] 2) 学会役員：日本映画学会会長／日本英文学会中部支部理事・大会準備委員会委員長／日本スコット・フィッツジェラルド協会評議員・地域代表／日本アメリカ文学会中部支部幹事／サウニディングス英語英米文学会評議員 (2019年5月より)

#### 趙泰昊

- ⑥ 1) 「中英語 *Octavian* における階級意識の衝突とサラセン商人の移動性」(日本中世英語英文学会第35回全国大会、12月1日、於東京未来大学) [単独] 2) 'Imagining the Racial-Religious Other: the Representation of Saracens in Middle English Romances' (The International Conference on Transnational American Studies: 'Trans-Pacific, Trans-Atlantic, Trans-Chronological', 12月6日、於慶應義塾大学三田キャンパス) [単独]

#### 坂口和寛

- ② 「類義表現分析において日本語母語話者が行う意味特徴説明」『信州大学人文科学論集』第6号、pp.169-181、2019年3月 [単著]  
 ⑦ 1) 日本語教育学会代議員 (北陸・中部・近畿ブロック) (2019年6月から) 2) 長野県「日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業」における「教材の検討・開発委員会」委員 (2019年8月から9月まで)

#### 速水香織

- ② 1) 「高照神社ゆかりの古典籍——「高岡御蔵書」印をめぐる——」(『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第5集、pp.29-38、2019年3月) [単著] 2) 「真田宝物館蔵木板本「二十一代集」の伝来」(『松代』第32号、pp. 1-16、2019年3月) [共著]  
 ⑦ 1) くわな市民大学文化科講座「歴史物語を読む」(桑名市パブリックセンター、全7回、2019年5-12月) [単独] 2) NHK 文化センター講座「『万葉集』を読む」(NHK 文化セ

ンター, 2019年7月～現在に至る) [単独] 3) 70周年信大人文へのホームカミング「ホームカミング懇談会」ファシリテータ(5月31日, 於信州大学人文ホール) [単独] 4) 人文カフェ「キャンパスのある風景——信州大学人文学部と松本のまち」講師(7月19日, 於あがたの森文化会館) [単独] 5) 日本文学協会委員(2016年～現在に至る) 6) 日本近世文学会『近世文藝』編集委員(2019年) 7) 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C・課題番号17K02447「信仰とメディアとの接点—近世前期における奉納文芸並びに神異譚の生成と変容との研究」研究代表者 8) 日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)・課題番号18K18691「観光行動における歩くことの心理過程と自己過程に関する研究」研究分担者 9) 日本学術振興会科学研究費補助金 研究成果公開促進費・課題番号19HP5032「近世前期江戸出版文化史」代表者 10) 調査報告書『信州大学「藩文庫」目録』(2019年3月31日発行, 25p) [共編]

### 山田健三

②上杉本『伊呂波盡』をめぐって(2019年4月刊行。国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 三十八』和泉書院、所収) [単著]

⑦1) 日本学術会議シンポジウム「地域と世界に生きる大学—地域社会における知の創造と発展のために」にパネリストとして参加。「地域社会における人文学の還流」と題する発表を行う。(2019年2月3日、日本学術会議講堂) 2019年5月発行の日本学術会議ニューズレター(24期5号)に簡単な報告あり。[単独] 2) 「どんな言葉にも「お」を付けるってどう?」(記事協力)『読売新聞』大手小町(2019年3月26日ウェブ掲載) [共同] 3) 信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業プレ・シンポジウム「赤レンガでつなぐとき、まち、ひと」(2019年3月31日)の立案実行。[共同] 4) 新元号「令和」に対するコメント(記事協力)『市民タイムズ』(2019年4月2日掲載) [共同] 5) 信州大学人文学部主催「70周年信大人文へのホームカミング」(2019年5月31日)の立案実行。[共同] 6) 信州大学防災減災センター・人文学部共催「防災減災シンポジウム」(2019年8月5日)に指定討論者として参加。[共同] 7) 松本深志高等学校評議員(継続)。

### 渡邊匡一

②1) 「信州知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み(『大学図書館研究』112, pp.2041-1-14, 8月31日 [共著] 2) 「研究者の手に研究を取り戻す—電子ジャーナル、オープンアクセスに関する信州大学の取り組み」(『大学マネジメント』173, pp.38-47, 11月10日 [共著])

④松高人名録(その一)展(3月2日～5月6日, 旧制高等学校記念館) [制作・監修]

⑥1) 「近代教育資料の可能性と課題—旧制松本高校を中心に—」(第24回夏期セミナー, 8月17日, 旧制高等学校記念館) [単独] 2) 「文化財指定の意義について」(諏訪市公民館歴史講座, 10月26日, 諏訪市博物館) [単独]

⑦1) 仏教文学会委員(平成22年4月～令和2年3月) 2) 説話文学会委員(令和1年10月～令和4年9月) 3) 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「真言宗寺院における中・近世期の学問展開に関する基礎的研究(課題領域番号: 17K02412) 研究代表者